

改良を要すべきものあるを覺ゆるなり。今や春風  
 駘蕩草木禽鳥皆笑ふの候、日本人の笑ひ方に就て  
 一言し、其反省を求むる亦時を得たりといふべき  
 か。

貞一の日記

(承前) (明治廿六年)  
 (拔萃) (五月生男兒)

そのの母

三月廿八日 今日千葉より、筒井の伯父さん、御  
 出になりしも、例の如く、はにかむ、  
 道にて、余り親しくなき人に、貞チャンと呼ば  
 れる時は、誠に澁りたる顔して、ジツト下を向  
 いて、「イヤ〜」といふ。  
 夕方、父に抱かれながら、上野のバーサンきた  
 ないと、繰りかへしいふ、この日曜日に見たる  
 乞食の老婆の事なり。また大きくなつたからつ

ま喰べやうといつて、足をつまだて、背伸びす、  
 これは何日かお刺身のつまを、喰べやうとした  
 時、これは大きくなつたら、喰べるものと、云  
 ひさかせしを覺え居りしなり。

父の額を指して、オツムのボンボといふ、前  
 も、自分の足の甲を、アンヨのオセナカ、又足  
 の裏を、アンヨのボンボなどいへり。

三月卅一日 晝食後、朝來の風風きて、氣候も暖  
 かなり、「ドツカヘユキマシヨ〜」と繰り返して  
 せがむ儘に、父と電車にて日比谷公園に向ふ、  
 昌平橋に至りて、船を見るや、「オフネ〜」とよ  
 びて、「オフチガギツチラコ」と大きな聲で得意  
 になりて唱ふ、神田橋に到りて、外濠線の電車  
 を見るや、又大聲にて「御茶水電車」とよび、又  
 「電車が鬼でござして居る」などいふ。公園に行

きても、中々遊ばうとはせず、始終電車のこと云い通しなり、四時帰宅、入浴、六時就寝。

四月一日 午後より、父母と弓町の女子美術學校の展覽會を見に行く、余り混雑して居る故か、

「オウチカヘロー」とくりかへす、途中にて車が来るからはじの方をお歩きといへば、ハジクナイココアブナイといふ。

四月三日 父母と稻毛の海氣館に行く、大好きな電車と汽車の乗りつけなれば大よろこびなり人を見ても、例の如く、いやがらず、館の女中

などにも愛想よく笑ふ、蓄音器をきゝて、「オバ―サンガ、ウタツテキル」といふ、蓄音機の聲が歟枯て聞こゆる故なり。

四月四日 海氣館に滞在、後の山、前の濱にて、終日、おもしろく遊ぶ。

この頃貞一のおかしき言葉は、

人デイツバクナイ(イツバイデナイ)オジヤマクナイ(オジヤマデナイ)ハジクナイ(ハシデナイ)イカレナイ(行カレナイ)

四月五日 朝飯後 汽車にて、千葉の筒井伯父さんの許に行く、汽車の時間余り短かき故、機嫌悪くもつと乗ろうといふ。伯父さんの所では

思ひしよりは、はにかまず、愛子さんと椽側で汽車ゴツコして歩きまわる。三時の汽車にて海氣館にかへる。

四月六日 朝九時何分かの瀛車にて歸京す。  
四月七日 小原先生の許に行き、診察をうく、少しく腹工合わしくなり居れりと、散薬三日分頂

く、体量、一二三〇〇、〇、  
食事は當分左の如くす。

朝 あさ バン、牛乳一〇〇瓦 ぎゅうにゅう じやうにちやう がい

晝 ひる 粥 かゆ 免肉 ぎんにく

ふやつ、牛乳一〇〇瓦 ぎゅうにゅう じやうにちやう がい バン、

夕 ゆふ 晝 ひる に全 ぜん じ

野菜と味噌汁を廢すべしとの事なり。

四月九日 「千葉でおひる御飯たべた」といふ何で

喰へたといへば、お刺身でと答ふ、筒井で御馳

走になりし事を思ひ出しゝなり。

また、「こゝ海氣館のちうち」などいふ、「おてん

きになつたら、海氣館へつれて頭戴」と頼む。

四月十日 湯屋より歸る時、傘をさして出て行く

人を見て、「カサヲサシテスメ〜」と旗をた

てゝすゝめの節にて唱ふ。

四月十二日 「水トオシッコトツナグ」といつて溝

の中に小便す、一體「ツナグ」といふことが大好

にて何でも二ツ以上ある時は「コレトアレトツナグ」といふ。

四月十八日 自分の裸体の寫真を見て、「きもの

きかへなくちやならん」といふ、自分きものを

きかへる時、裸体にて逃げ出す故、はやくきもの

のきかへよと云はれる事を思ひ出しゝ、ならん

「ナシチヤナラン」は始めての言葉なり。

お向ふの正ちやん、棒で蛙をいぢめて居るのを

母が、「ひどい事してはいけません」といひしに

きかざれば 貞一は泣き聲して「ひどいことし

ちやいけない〜」と止める、

またある時、母の見ぬ中に、鏡臺より水油の瓶

を取り出して、夫を頭から頭へかけて一面に、

べた〜に塗りつけ居たる所へ、母入り來れば

澄まし込んで、「テイチャン、ベッピンサンナツ

タ」といつて居る。

四月十九日 海氣館が無闇に氣に入つたらしく、

何かにつけては思ひ出して「海氣館へ行きませ

う」といふお作さんとおりんさんとの咄しゝて

頂戴といふ。これは其處の女中の名なり。

その咄をすると、何時までも、もつと〜とい

ふ。

「ナイッテバ」といふ言葉を感じて、近頃来て居る

名八さんに、しきりと、「ナイッテバ」を使つて

いはる。道を歩くに向ふより車來る時は遠方に

居ても、「オジャマ〜」といつて、なか〜歩

かず、無理に歩かせ様とすると、「コラバカ」と

いふ。「コラ」といふ言葉も近頃使ひ出したるに

てこれも名八さんが少しでも氣に入らぬことを

する時に、よく「コラ」といつて、時には手を舉

げて打たうとするなり。

### 實驗上の育児

醫學博士 瀨川 昌 著

#### 哺乳兒の兩便

▲母乳と牛乳とは大便が違ふ 母乳で育てる兒

と、牛乳で育てる兒とは大便の性質が違ふので

す、母乳だと黄色味を帯びて居るが牛乳だと灰白

色で其上母乳の便より固く、分量が多く爾うして

臭氣が強い、斯くの如き相違を來すが其内には菓

子を食べたり、粥を食べたり、少しづつ食物を食

べるやうになると、母乳で育てゝも、牛乳で育て

ゝも大人と同じ褐色の便となり、臭氣がある。

▲病氣の時の大便 前にも云ふ通り哺乳兒が病氣

にかゝれば直ぐ、大便が變化を來して、綠色にな